

平成 25 年度 学校評価結果

徳島県立穴吹高等学校

○ 評価基準 A:十分に達成できた / B:概ね達成できた / C:十分には達成できなかった / D:全く達成できなかった

重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	次年度への課題・改善策			
1 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるような授業の工夫をする。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B (所見) 評価指標については、目標を下回る結果となった。活動計画に関しては計画通りに実施できた。生徒の授業に取り組む姿勢は、学年が上がるほど積極的になっている。これは、単位制で自分の進路に応じて講座を選択することにより、授業への積極性が出てきたからだと考えられる。興味をもてる授業を教師が実践することが、生徒の授業への積極性につながると考えられるので、授業方法や内容の改善をさらにすすめていく必要がある。	○ 授業見学の回数は参観シートの提出枚数で計算しているのので、参観シートの確実な提出を呼びかける。また、公開授業週間についても学校行事等の日程を考え、多忙でない時期に設定する。 ○ 返却された参観シートを授業実践力向上につなげてもらえるよう呼びかける。 ○ 生徒自らが学び取ろうとする姿勢を育てる授業づくりのために、各教科での教科会を定期的に行う。			
	1 他の教員の授業を前・後期、各 3 人以上の授業を見学する。 教員(3人以上)の授業見学率 100%を目指す。	1 教員(3人以上)の授業見学率 [前期] 73% [後期] 69% 年間平均 74%					
	2 生徒・教員による授業への評価 ① 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の質問に対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒を全学年 70%以上を目指す。 ② 教員への授業アンケートで「自ら学び取ろうとする姿勢を育てる授業の展開ができたか」の質問に対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する教員の割合が 70%以上を目指す。	2 ① [1 学年] 57.9% [2 学年] 70.9% [3 学年] 74.7% 生徒全体 67.8% ② 「そう思う」 7.7% 「だいたいそう思う」 53.8% 教員全体 61.5%					
活動計画	活動計画の実施状況						
1 前期・後期に各 1 週間すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。	1 5 月 13 日～17 日と 10 月 21 日～25 日の各一週間を公開授業週間とし、すべての授業を公開。3 人以上の教員の授業見学を目標とし、見学後には参観シートへ記入した。参観シートには「参考になった点・自分の授業で生かせる点」や「この授業で注意・改善した方がいい点」を書く欄を設け、参観する側もされる側も授業実践力を向上できるようにした。参観シートは後日、参観された側へ返却した。						
2 生徒・教員へ授業についてのアンケートをとる。公開授業での他の教員の授業手法や、アンケートでの指摘等を取り入れ授業力向上を図る。	2 12 月下旬に生徒と教員へ授業アンケートを実施した。公開授業週間の参観シートは各教員に返却し公表したが、その活用法は各個人に任せるにとどまっている。						
2 将来への目標を考えさせることを通して、学習意欲の向上と基礎学力の伸長を図り、就職・進学の実現を目指す。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B (所見) 活動計画の実施状況については、概ね計画どおりに実施することができた。しかし、評価指標の達成度に関しては、学年による差が大きく、全体としての達成度は低調であった。 ○ 進学や就職において、検定や資格がどのように評価されているかについて、自分で調べさせることにより、検定受験や資格取得への意欲を高める。 ○ 来年度も国語の授業で事前指導を実施し、漢字検定合格と基礎学力の定着をめざす。 ○ 家庭学習の定着に向けてアンケート実施後の定期考査でも活用し、来年度につなげる。 ○ 読書会だけでなく、新着図書案内の発行頻度を上げ、多くの生徒に図書のリクエストを募ることで読書活動を啓発する。 ○ 1・2 年生に進路資料室の使い方を指導し、進路を考えるきっかけとなるよう働きかける。	○ 進学や就職において、検定や資格がどのように評価されているかについて、自分で調べさせることにより、検定受験や資格取得への意欲を高める。 ○ 来年度も国語の授業で事前指導を実施し、漢字検定合格と基礎学力の定着をめざす。 ○ 家庭学習の定着に向けてアンケート実施後の定期考査でも活用し、来年度につなげる。 ○ 読書会だけでなく、新着図書案内の発行頻度を上げ、多くの生徒に図書のリクエストを募ることで読書活動を啓発する。 ○ 1・2 年生に進路資料室の使い方を指導し、進路を考えるきっかけとなるよう働きかける。			
	1 学習意欲向上のため各種資格試験・検定試験の受検を推進し、全校生徒の 30%以上の受検率を目指す。	1 数検受検者 2.1% (40.0%) ・ 保育技術検定受検者 13.1% (100%) ・ ワープロ検定受検者 35.6% (57.1%) ・ 漢検受検者 8.9% (52.4%) ・ 英検受検者 12.3% (17.2%) * 受検率(合格率)					
	2 基礎学力養成のため校内漢字テストを実施し、事前指導を充実させることで、優秀者の割合を各学年において 15%以上を目指す。	2 年間 8 回のテストにおける優秀者の割合 1 年生 6.0% 2 年生 35.8% 3 年生 34.2%					
	3 学習時間の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査中、各学年において一人あたりの 1 日平均学習時間 2 時間以上を目指す。	3 一人あたりの 1 日平均学習時間 1 年生 1.6 時間 2 年生 2.1 時間 3 年生 1.9 時間					
	4 学力向上を図るため読書活動を推進し、一人あたりの年間図書貸し出し数 5 冊以上を目指す。	4 一人あたりの年間貸し出し冊数 4.0 冊 一人あたりの 1 ヶ月図書館利用回数 2.5 回					
	5 将来の目標を立て実現するために、進路資料室の利用を促進し、利用者の割合を全校生徒の 20%以上を目指す。	5 「よく」及び「ときどき」利用した者の割合は全校生徒の 30.0% 1 年生 0.0% 2 年生 14.3% 3 年生 75.3%					
	活動計画	活動計画の実施状況					
	1 教科担任や担任が積極的に受検を呼びかけ、取得すれば履歴書や調査書にも記入できることを低学年から知らせていく。	1 各 HR や授業で全体に呼びかけるだけでなく、個人的な呼びかけも行った。また、資格や検定の重要性について HR で指導した。					
	2 実施日に向けて国語科の授業で事前対策を実施し、また再テストなどの事後指導をホームルームや教科指導のなかで継続して行う。	2 国語科と担任が協力して事前指導を実施した。特に国語科の授業においては反復学習を実施した。また事後指導として、各 HR で間違いを訂正して提出させたり、再テストを実施した。					
	3 考査期間中の 6 日間、家庭学習調査を実施することで、生活の見直しや学習の偏りなどを担任が声かけする。	3 家庭学習時間を記入させることにより、生徒の学習状況を担任が把握できた。また、面談の際に学習時間記入用紙をもとに話をし、勉強不足の事実を保護者にも伝えられた。					
4 図書委員による広報活動や放課後読書会の回数を増やし定期的に行うことで、生徒が図書館を訪れる機会を設ける。	4 校内読書会を 1 回、放課後読書会を 2 回実施した。図書委員による広報活動についても実施できた。						
5 低学年より、ホームルーム活動や総合学習の時間を利用し、資料室の活用方法を知らせる。	5 2・3 年の利用者は昨年度より増えているが、1 年生は全く利用できていない。資料室の活用方法を知らせる時期が遅かった。						
3 基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻、頭髪・服装指導に重点を置く。また学校や社会のルールを守り正しい行動がとれる生徒を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B (所見) 頭髪再指導の人数は延べ 56 名と、昨年度より約半減し、改善した。4 月当初より、終日正装を実施した効果と思われる。 遅刻者数は一昨年度より増加したものの、昨年度よりは低く抑えられた。目標としていた 1 日平均 5 人以下は達成できた。 授業開始後に教室外にいる生徒や学校周辺での問題行動は少なかったが、特別指導の数は昨年度より増加した。特に、交通指導関係の特別指導を受ける者が多くでた。	○ 長期休業後の 4 月、9 月、1 月における再指導者数の合計が 25 名と、他の 5 回の再指導者数とほぼ同数となっている。長期休業が終了する直前に、担任を中心に気になる生徒に声掛けをするなどして登校前に頭髪を整えさせ、この 3 回の再指導者数を減少させたい。服装等については、4 月より実施している終日正装を継続していきたい。 ○ 遅刻者数は、設定目標達成できた。来年度、さらに低くなるよう粘り強く呼びかけるなどして、継続的な指導を実施していきたい。特に、10 月から 1 月までの遅刻者数が多いため、この時期の遅刻者を減少させたい。 ○ 特別指導を受ける生徒の数は昨年度より増加した。特に交通指導関係の特別指導が減少するよう学年集会や全校集会等の機会を捉え、指導の徹底を図りたい。			
	1 毎月行う頭髪・服装指導の頭髪再指導者数が 1 ヶ月平均 8 名以下を目指す。	1 頭髪の再指導者数は 1 年 6 名、2 年 15 名、3 年 35 名、延べ 56 名だった。 1 ヶ月平均にすると 7 名 (2.8%) で、目標を達成することができた。					
	2 1 年間を通した 1 日平均の遅刻者数が 5 人以下を目指す。	2 全校生徒に対する遅刻者数の割合 平成 23 年度 1.6% (1 日平均 4.3 人) 平成 24 年度 2.1% (1 日平均 5.4 人) 平成 25 年度 1.9% (1 日平均 5.0 人)					
	3 校内巡視・校外巡視が問題行動の未然防止につながり、特別指導を受ける生徒の減少を目指す。	3 校内巡視は、全教職員が交代で毎日実施。合計 162 日実施した。 授業中巡視は 69 日実施した。 校外巡視は午前中授業の日を中心に、合計 69 日実施した。					
	活動計画	活動計画の実施状況					
1 毎月の頭髪・服装指導以外にも、随時気になる生徒を指導する。	1 毎月 1 回、合計 8 回実施した。学年別に全教員で取り組んだ。違反生徒は、後日学年主任、生徒課長が中心となり、改善が見られるまで再指導した。						
2 1 週間に 2 回以上遅刻した生徒をその次の週に個別に指導する。	2 週 2 回以上遅刻した生徒に対しては、翌週、各学年の担当教員を中心に、特別に遅刻指導を実施した。						
3 計画的、継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気になる場合には随時巡視を強化する。	3 校内巡視は、基本的に毎日全教職員が交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。 校外巡視は、午前中で放課になる日を中心に、JR 穴吹駅周辺、脇町の量販店周辺などを見て回った。						

重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価	次年度への課題・改善策	
4	<p>1 月1回アースデー(環境を考える日)を設け、ゴミの分別と節電・節水を習慣づける。</p> <p>2 エコキャップの回収や清掃活動を通し、環境に対する行動力を養う。</p>	<p>評価指標</p> <p>1① アースデーにおけるアンケート結果から意識の向上を検証する。</p> <p>② 電気・水道の使用量を前年度より3%減をめざす。</p> <p>2 エコキャップの回収個数を前年度より3%増を目指す。</p> <p>活動計画</p> <p>1① アースデーの朝 SHR で美化委員が、ポイ捨て禁止やゴミの分別を呼びかける。また、15分いっぱい清掃するよう、ポスターを製作し、掲示する。</p> <p>② 月ごとの電気・水道の使用状況を ISO コーナーに掲示するとともにアースデーに発表し、省エネを呼びかける。</p> <p>2 家庭や地域にも呼びかけ、エコキャップの回収を行う。</p>	<p>1①<アンケートの結果></p> <p>上段：H25年度の5月と1月の比較 下段：年度平均の比較 (H23→H24→H25)</p> <p>①学校でゴミを拾った。 37%→26% (53%→43%→39%)</p> <p>②自分のゴミはゴミ箱へ。 83%→62% (84%→83%→76%)</p> <p>③ゴミの分別をした。 82%→62% (84%→84%→77%)</p> <p>④節電・節水をした。 77%→60% (77%→81%→76%)</p> <p>②<電気水道使用量></p> <p>電気：4～12月の電気使用 130,212kw 前年度4～12月 130,461kw -249kw 前年度より0.2%減</p> <p>水道：4～11月の水道使用 2,428 m³ 前年度4～11月 2,189 m³ 239 m³ 前年度より11%増</p> <p>2 <エコキャップ個数></p> <p>4～1月の生徒一人あたりの個数 91個 総数では 21,832個 (前年度 48個 総数 12,770個) 個数 43個増 90%増 総数 9,062個増 71%増 目標の3%増を大幅に超えた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1① アースデーは4月より1月までで8回実施した(昨年度は6回)。美化委員は、朝の SHR で分別やエコを呼びかけ、昼休みに教室のエコキャップを回収し数を数え、帰りの SHR で行ったアースデーアンケートを集計した。</p> <p>②予定通り実施できた。</p> <p>2 教室以外の場所のエコキャップ個数調べは、JRC 部員が行った。 年間随時、家庭からの回収を受けつけた。4～1月の総数 20,048個のうち、家庭からは 7,850個</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p> <p>(所見) 節電・節水・リサイクル活動については、概ね目標を達成できた。特に水道・電気の使用量は常に確認することで、漏水や無駄な使用状況に留意する意識を持つてるところに意味があると考えられる。 日常的に落ちているゴミを自発的に拾う生徒が減少した感がある。そのせいか日常生活環境を「きれい」ととらえている者、「汚れている」ととらえている者がちょうど半数に分かれ、生徒間の美化意識に大きな格差があることがわかる。美化委員の活動が定着し、清掃や分別を苦にせず取り組む生徒が全校的に増えてきた。</p>	<p>○ 依然残っているゴミのポイ捨てを完全になくせるよう呼びかける。特にお菓子のゴミが多く、ゴミとして落ちているようなら、クラスや学年で NO お菓子 Day を設けるなど注意を喚起する。</p> <p>○ 紙コップの持ち込み禁止を徹底し、缶・ペットボトルとともに中身を捨てた後廃棄するよう呼びかける。</p>
5	<p>1 生徒会活動、学校行事を通して、自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>2 部活動のより一層の活性化を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>1① 各部が校内外の清掃活動を月1回実施する。</p> <p>② 華の丘祭などの学校行事における生徒の満足度 90%以上を目指す。</p> <p>③ 生徒会役員があいさつ運動を週2回実施する。</p> <p>2① 部活動の12月時点での入部率 75%以上を目指す。</p> <p>② 部活動生集会を年間3回以上開催する。</p> <p>活動計画</p> <p>1① 生徒会、部活動を中心に月1回、校内外の清掃活動を行い積極的に環境美化活動に取り組む。</p> <p>② 華の丘祭が穴高生にとって一大イベントであることを理解させ、積極的参加を促し、成功への意識の高揚を図り、生徒会ならびに各ホームルームの生徒自身が主体的に企画、運営していきけるよう適切な指導をおこなう。</p> <p>③ 生徒会役員が積極的にあいさつを行うことで、学校全体であいさつからコミュニケーションを図っていく習慣を身につける。</p> <p>2① 部活動への積極的かつ継続的な参加を促す。</p> <p>② 部活動での活動を通して、所属感、連帯感を体感できる取り組みを工夫し、指導を行う。また、部活動生集会を通して、全ての部活動で連携を図り、よりよい部活動の運営に努める。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>1① 4月当初に計画をし、13部中10部が実施できた。</p> <p>② 華の丘祭における生徒満足度は 94%あった。球技大会における生徒満足度は 89%であった。</p> <p>③ 毎週月・金曜日にあいさつ運動を実施できた。</p> <p>2① 12月時点での入部率は 78%。</p> <p>② 集会を4月、6月、8月、1月の4回実施できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1① 生徒会・部活動を中心に月1回当番を決め、日頃の清掃活動で清掃できない場所を清掃した。</p> <p>② 生徒会役員を中心に夏休みの前から実施案を考え計画してきた。また華の丘祭実行委員を募集し、生徒会役員のサポートをお願いし、さらなる内容の充実と生徒への積極的な参加を呼びかけた。</p> <p>③ 週2回実施することで、生徒の 94%があいさつ運動を好意的にとらえてくれた。しかし、中には消極的な生徒もあり、さらに浸透させるため工夫が必要であると思う。</p> <p>2① 部活動生集会や全校集会などで、部活動への積極的かつ継続的な参加を促す声かけを行った。</p> <p>② 第1回部活動生集会では、部活動生の共通目標を掲げて、部活動生全員が所属感、連帯感をもてるように指導した。第2回では総体に向けての結束や創作活動への意欲向上を促した。第3・4回では、1・2年生の新チーム・新組織としての心構えを伝えた。 部活動生集会が運営や活動の役に立ったと感じる顧問の先生は 92%、生徒は 88%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p> <p>(所見) 実施計画した項目は、満足するアンケート結果が出ている。しかし、学校行事において生徒数減少の影響がでてきており、実施方法の変更が必要になってくる。 部活動においては各部の枠を超えた活動を行い、各部とも競争しながら良い結果に結び付けていく活動がさらに求められる。</p>	<p>○ 各部の清掃活動を連絡調整する。</p> <p>○ 学校行事により多くの生徒が多くの機会に参加できるように、実施方法の変更を考える。</p> <p>○ 部活動生集会をさらに工夫する。様々な顧問の先生から話をしてもらい、各部の活動の連携がより密になるようにしたい。</p>
6	<p>人権委員会の活動を活性化させるとともに、生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>1 人権の日に関するアンケートにおいて、「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答する割合が 70%以上を目指す。</p> <p>2 人権の日や人権意見発表会における人権委員の運営に関するアンケートにおいて、「とても良かった」「まずまず良かった」と回答する割合が 70%以上をめざす。</p> <p>3 人権教育講演会・人権教育映画鑑賞会の内容に関するアンケートにおいて、「とても良かった」「まあまあ良かった」と回答する割合が 90%以上を目指す。</p> <p>4 1月に実施される人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月比 3%以上向上を目指す。</p> <p>活動計画</p> <p>1 月1回「人権の日」を設け、人権委員を中心にした人権問題学習を実施する。</p> <p>2 人権の日や人権意見発表会において、人権委員を中心にした運営を推進する。</p> <p>3 人権問題講演会や人権教育映画鑑賞会を開催し、人権啓発を行う。</p> <p>4 年間2回(4月・1月)、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>1 「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答した割合 90.7%。</p> <p>2 とてもうまくいった」「まずまずうまくいった」と回答した割合 95.0%</p> <p>3 「とてもよかった」「まあまあよかった」と回答した割合 100%。</p> <p>4 1月に実施される人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月比 4.0%向上。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1 計画通り実施できた。</p> <p>2 生徒が司会・進行を務め、計画通り実施できた。</p> <p>3 5月22日に、講師：山中千枝子さん、演題：『自分の命、守れますか』～知っておきたいケータイからのネットトラブル』で人権問題講演会を実施した。</p> <p>4 計画通り実施し、人権教育教職員研修会などにおいて、結果を検討した。</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p> <p>(所見) 評価指標については、達成できた。人権委員の生徒は自主的に行動し、前向きに取り組んでいた。 人権教育講演会・人権教育映画鑑賞会への保護者参加数が多くなく、また保護者と人権問題について話し合う生徒が少ないことが、活動を通して浮かびあがった。</p>	<p>○ さらに多くの生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図るために、人権委員会やヒューマンライツ部などの生徒が主体的に活動する機会を増やす。</p> <p>○ 保護者と連携して生徒の人権教育を実施するためにも、人権問題講演会や人権教育映画鑑賞会は生徒・保護者の興味・関心に合うものを精選する。</p> <p>○ 人権問題解消に向けて、人権問題を自分の問題として、自ら考え行動できる生徒を育てるために、身近で具体的な事例を取り上げる。</p>